

2020年度計画

下記日程には一部予定を含みます。

3月	↓	【3月11日(水)】2020年度事業計画説明会開催(企業・団体向け) 大学コンソーシアムえひめインターンシップ部会の事業計画説明
4月	↓	【上旬】受入依頼状等を企業・団体に発送 インターンシップ研修生受け入れの可否及び インターンシップ受入プログラム合同説明会参加の有無について紹介 【4月17日(金)】受入可否・合同説明会参加可否回答締め切り 上記案内書類(アンケート等)の回答締め切り
5月	↓	【5月30日(土)】合同説明会開催(9:30-15:30)
6月	↓	【6月24日(水)～7月3日(金)】企業・団体の学生面接 学生の研修希望先での面接
7月	↓	【7月初旬】各大学から企業・団体へインターンシップ研修申込書発送
8月-9月	↓	インターンシップ研修
9月	↓	【上旬】研修先企業・団体にアンケート送付
11月	↓	【下旬】拡大懇談会開催

各大学インターンシップ連絡先

愛媛大学 2020年度事務担当校 教育学生支援部就職支援課 (担当/中正) 〒790-8577 松山市文京町3番 TEL 089-927-9164(直) FAX 089-927-9181 www.ehime-u.ac.jp/	松山大学 教務部教務課 (担当/末廣・佐藤) 〒790-8578 松山市文京町4-2 TEL 089-926-7137(直) FAX 089-923-8920 www.matsuyama-u.ac.jp/	松山東雲女子大学 松山東雲短期大学 キャリア支援課 (担当/一楽) 〒790-8531 松山市桑原3丁目2-1 TEL 089-913-2610(直) FAX 089-931-6402 www.shinonome.ac.jp/	聖カタリナ大学 学生部就職課 (担当/蔵前) 〒799-2496 松山市北条660 TEL 089-993-0731(直) FAX 089-993-0717 www.catherine.ac.jp/
---	--	---	---

編集・発行/大学コンソーシアムえひめインターンシップ部会
インターンシップ・プログラム実施報告書
Internship Program Report 2019



インターンシップ・プログラム実施報告書

Internship Program
Report 2019

大学コンソーシアムえひめインターンシップ部会

2019年度のインターンシップ研修実施のお礼および
来年度以降の取組へのご協力をお願い

大学コンソーシアムえひめインターンシップ部会 2019年度部会長 桐木 陽子
松山東雲短期大学 副学長(キャリア支援担当)

地域の企業・団体のみなさまにおかれましては、平素より大学コンソーシアムえひめインターンシップ部会の活動に、多大なご支援を賜りまして、誠にありがとうございます。

2019年度は、89事業所の企業・団体さまに、愛媛大学・松山大学・松山東雲女子大学・松山東雲短期大学・聖カトリナ大学から464名の学生を受け入れていただき、無事にインターンシップ研修を終えることができました。

学生を受け入れてくださった企業・団体さまには、学生へのあたたかいご指導をいただきましたこと、重ねてお礼申し上げます。おかげさまで、アンケート結果からは、多くの学生が満足し成長の実感を得たこと、受け入れてくださった企業・団体さまにも、概ねご満足いただけたことが伝わってまいりました。いただきましたご意見やご提案は、大学関係者で真摯に受け止め、改善に努めていく所存です。

研修を受け入れてくださった企業・団体さまもお招きし、11月に開催いたしました拡大懇談会では、「効果的なインターンシップのための評価」と題して、北九州市立大学地域戦略研究所 教授 見館好隆先生にご講演いただきました。複雑化する現代社会において、地域社会のあらゆる教育資源の新結合を行い、地域の実情に即した人材育成システムの構築が必要であること、インターンシップはそれらを実現していくための取組として、最も期待できる教育の一つであることを再認識することができました。そして、持続的で質の高いインターンシップ研修の評価方法についてアドバイスをいただき、企業・団体さまとも意見交換をすることができました。今回の学びを今後の活動に活かしていきたいと存じます。

コンソーシアムえひめインターンシップ部会では、次年度以降も企業・団体さま、学生側双方にとって有意義なインターンシップ研修となるよう、さらなる質の向上に努めてまいりたいと存じます。引き続き、ご支援とご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

これまでの経緯



1990年代初頭にバブル経済が崩壊して以後、「失われた10年」はこれまでの日本型システムの多くを変容させ、特にその当時、新卒学生の就職状況が悪化する中で、フリーターやニートといった若者雇用問題が大きな社会問題となっていました。

そのような中、1997年9月、当時の文部省・通商産業省・労働省の三省は合同で「インターンシップの推進に当たっての基本的な考え方」を発表しました。在学中に就業体験を行うというこれまでの学校教育にはない新しい取り組みが政策レベルで

模索され始め、今日では多くの高等教育機関でその実践が展開されています。

愛媛県内の高等教育機関でも独自にインターンシップを教育課程に取り入れてきましたが、無差別な受入要請が地域におけるマッチング秩序を混乱させるという事態が発生しました。2003年、受入先等の要望もあり、愛媛県中小企業家同友会の協力を得て、県内4大学(愛媛大学・松山大学・松山東雲女子大学・松山東雲短期大学)が中心となり地域における大学生のインターンシップを統一的に運営するため、「愛媛県内4大学間インターンシップ連絡協議会」が設立されました。

2009年には、愛媛県内で大学コンソーシアムができ、「愛媛県内4大学間インターンシップ連絡協議会」は「大学コンソーシアムえひめインターンシップ部会」へと移行しました。しかし、設立当初からの目的や地域の各組織との連携関係を変えることなく、2013年度からは聖カトリナ大学も加え、5大学で発展的に事業を展開しています。

1997年
「インターンシップの推進に当たっての基本的な考え方」が発表される

2003年
「愛媛県内4大学間インターンシップ連絡協議会」設立

2009年
「大学コンソーシアムえひめインターンシップ部会」へと移行

2013年
聖カトリナ大学も加え愛媛県内5大学として発展的に事業を展開

インターンシップへの取り組み

愛媛大学

国立大学は、6年ごとに中期目標を定め、その取組を行っています。法人化以後、現在は「第三期中期目標期間」にあり、2016年度よりその期間が開始されています。愛媛大学は、「輝く個性で地域を動かし世界とつながる大学を創造すること」をVisionとしています。

大学の戦略として、特に重視されているのが「地域の持続的発展を支える人材育成の推進」です。具体的には「卒業生の愛媛県内就職率アップ」「愛媛大学版汎用的能力の習得率アップ」「卒業生に対する企業等の評価アップ」を掲げ、着実にその成果を積み上げています。

2003年の愛媛県内4大学間インターンシップ連絡協議会によるインターンシップが始まって以後、インターンシップは学内で社会へと移行する学生の成長を支える重要な教育活動として位置づけられてきました。年々学生の参加人数は増加し、これまで累積で2700人ほどの学生にコンソーシアムえひめによるインターンシップを経験してもらったこととなりますが、「第三期中期目標期間」では、学内でのインターンシップの重要性がさらに増しています。

愛媛大学は、2016年度、地域の課題を解決するための人材を育成する「社会共創学部」を設置しました。社会共創学部では、トランスディシプリナリーの理念の下、多彩なカリキュラムが用意されますが、社会共創学部の学生のほとんどが就労体験(インターンシップ)を行います。今年度は第1期生が卒業の年となります。さらに地域に貢献できる資質をもった人材の育成に尽力し、地域と大学の連携を深めてまいります。今後とも変わらぬご協力をよろしくお願い申し上げます。

松山大学

松山大学におけるインターンシップの取り組みは、経営学部において1995年に学生自らが研修受け入れ先と受け入れ交渉を行い、職場研修を行う方式により開始されました。また、経済学部では、1998年に愛媛県中小企業家同友会と西四国観光ネットワーク「るーらるぽけっと」の会員企業を中心とした研修受け入れ先に学生を派遣し職場研修を行う方式により開始され、その後制度が統合され、2002年からは文系学部すべてで実施される全学部共通のプログラムになりました。

さらに、これまでは「共通教育科目」の1つであったインターンシップ関係科目が、2012年度からは独立した「キャリア教育科目」として位置づけられ、大学の教育活動の中で、ますます重要なものとなっています。

本学のプログラムは、前期に事前講義として「インターンシップ活用Ⅰ」(全15回の講義)、夏季休暇期間を利用した「インターンシップ研修」(実働30時間以上、もしくは実働60時間以上の実務研修)、さらに後期の事後講義として「インターンシップ活用Ⅱ」(全15回の講義)という形で実施しております。

松山大学では、2019年度、144名の学生が「インターンシップ研修」を行いました。毎年、研修を受けた学生の代表による研修報告会を開催するとともに、各受け入れ先の研修報告を冊子にまとめています。このような教育活動が可能となっているのも、ひとえに研修生を受け入れてくださる事業所・団体があったからこそであります。インターンシップにご協力いただきました皆様に心より感謝申し上げますとともに、今後の変わらぬご支援をお願いいたします。

松山東雲女子大学・松山東雲短期大学

本学では、2003年度より女子大学および短期大学でキャリアサポートセンターを中心にインターンシップ研修を進めて参りました。現在はキャリア支援課において、インターンシップ研修や低学年からのキャリア教育、就職活動に至るまで一貫して支援を行う態勢を整えております。2012年度から2014年度まで取り組んだ文部科学省「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」では、卒業生や愛媛県内企業等を対象とした産業界ニーズに応える“汎用的能力”に関するアンケートや在学生・卒業生の実態調査を実施いたしました。それらの結果を踏まえ、学生の主体性や課題発見力強化のためさまざまなキャリア支援プログラムに挑戦しています。

また、教育課程内においてもキャリア教育の取組を行っています。女子大学では、様々な社会人を講師に招き、職業について考える「キャリア論」や「ビジネスコミュニケーション」などの科目を配置し、1年次からインターンシップ研修やPBLを取り入れ初年次教育を強化しました。短期大学では、従来より職業に直結する教育を展開して参りました。中でも現代ビジネス学科では、1年次からインターンシップ研修を含む多様なビジネス体験を取り入れた科目を設置し、ビジネス社会に必要な知識・技能の習得を目指した体系的なカリキュラムを展開しています。

このように女子大学・短期大学ともに、全学を挙げてインターンシップ研修に取り組み、事前・事後指導の拡充に努めております。学内で開催されましたインターンシップ報告会は受入企業・団体様にもお越しいたいただき、学生の“気づきや振り返り”をサポートして頂いています。自分自身と向き合い、社会人としての責任の重さを痛感したインターンシップ研修の学びが、さらに深まる大変有意義な機会となりました。受入企業・団体の皆様におかれましては、引き続き“働くことの意味・やりがい”などについてもご指導賜り、今後とも主体的に考え行動できる学生の育成に変わらぬご支援、ご協力をお願いいたします。

聖カトリナ大学

聖カトリナ大学は、2013年度より大学コンソーシアムえひめのインターンシップ・プログラムに正式に参加させていただいております。本年度(2019年度)で人間社会学科は7年目、社会福祉学科は4年目を迎えました。2020年度は、引き続き両学科が参加させていただきます。

本学では、就職課を中心とした様々なプログラムに加え、正課科目においてインターンシップ研修のための事前指導を行い、学生が社会人として求められる知識やビジネスマナーを習得できるよう、支援を行っています。具体的な授業内容としては、学科担当教員によるキャリア意識の形成や職業観に関する講義・指導、外部講師によるマナー講習など、就職活動を意識した講義やワークを行っています。本学の支援の特徴は、小規模校の強みを活かした、学科教員による“顔の見える”個別指導にあります。研修後には、各自の学びを『インターンシップ研修報告書』として冊子にまとめるとともに、後学期に研修報告会を開催して、成果の共有と振り返り、学科教員からの指導を行っています。

本年度は、2学科で44名(34事業所)をインターンシップ研修に送り出すことができました。参加学生は、研修を通じて職場で働くことの厳しさや責任の重さ、自身の甘さを実感したり、他大学の学生から刺激を受けたりしながら、大きく成長することができました。それぞれが就職活動を行い社会に出ていくにあたって、自らの課題や方向性について考える貴重な機会となりました。学生を受け入れて下さった企業・事業所のみなさまには心より御礼を申し上げます。

2019年度 インターンシップ研修報告

今年度も県内5大学に在籍するたくさんの学生が参加し、インターンシップ研修が行われました。
受入企業向けの事業計画説明会を始め、年間を通じた研修事業の状況をご報告いたします。

事業計画説明会



受入を検討されている54の企業・団体等にご参加いただき、事業の方針やプログラムを説明。その後は大学関係者も加わり「情報交換ワークショップ」として「B to B製造業における理系・文系インターンシップの事例から」と題して、ワークショップを開催しました。県内で製造業を営む一事業所のインターンシップの事例報告を通し、学生に伝わりにくいB to B企業の魅力の発信や、理系と文系の学生双方を受け入れるインターンシップの在り方などについて意見交換を行いました。

合同説明会

愛媛大学、松山大学、松山東雲女子大学、松山東雲短期大学、聖カタリナ大学に在籍する506名の学生が参加。参加企業や団体の個別面談ブースをまわって研修内容の説明を受けたり、様々な質問をしたり、活発に活動していました。

拡大懇談会



その年のインターンシップ事業を総括するため、毎年この時期に開催しています。今回は、北九州市立大学の見館先生を講師としてお招きし、「効果的なインターンシップのための評価について考える」と題して講演およびワークショップを実施。研修生を受け入れていただいた38の企業・団体のご担当者とともに、講演の内容を共有し、今後の研修プログラムに役立てていくことになりました。

3月13日水

4月
【上旬】

インターンシップ受入プログラム
合同説明会への参加の有無と
インターンシップ研修生受入
プログラム内容に関する
アンケート送付

4月
【中旬】

アンケート等の
締め切り

6月1日土

6月
【下旬】

各大学から学生の
研修申込書を
研修希望先へ送付

7月
【上旬】

研修希望先での
面接

8月～9月

インターンシップ研修
(5大学合計464名が
89の企業・団体で研修を受ける)

9月
【上旬】

インターンシップ研修生
受入企業へのアンケート
(回収数91／配布数121)

11月28日木

愛媛大学

法文学部 人文社会学科
法学・政策学履修コース3年

せいけ ゆな
清家 結菜

研修先 特定非営利活動法人
ワークライフ・コラボ

私がインターンシップに参加した主な目的は、自分自身を知ることでした。インターンシップを通して自分自身の長所や短所、未熟な部分を把握し、また、そこからどうすれば長所を伸ばせるか、短所や未熟な部分を補えるかということを考え、成長するということを、今回の最大の目標としていました。

10日間のインターンシップでは主に、「休日子どもカレッジ」という子どもの成長のための長期休暇プログラムに携わらせていただきました。この活動では、地元企業などの協力を得て、夏休み中の小学生と一緒に非認知能力の育成をめざした社会教育プログラムを実施しており、私はレゴロボットのプログラミングや、フォトガーランド作成などの運営補助だけでなく、プログラムの企画・実施にも挑戦させていただきました。

研修の成果として、自分の長所や未熟な部分を感じることができたと思います。まず、小さな出来事からも学ぼうとする姿勢、また観察力や洞察力が自分の強みではないかと、子どもたちと関わる中で気づくことができました。また未熟な部分については、プログラムの企画の際に求められていた計画性と効率性というスキルが、自分には足りないと感じることができました。

今後、今回知った自己の長所を伸ばしたり、短所を補ったりしていくことに努め、これからの学生生活や人生をより豊かなものにしていきたいと思っています。

松山大学

人文学部社会学科
3年

かじた たかひろ
梶田 貴弘

研修先 株式会社テレビ愛媛

私がインターンシップ研修に参加した動機は、次の2点です。
①アルバイトでは味わえないような、働くことに対する緊張感や充実感を体験し、加えて業務内容や職場の雰囲気などのリアルな情報を知りたいと考えたこと。

②研修の中で自分の強みや弱みを再確認することで、就職活動を見据えた準備を万端にしたいと考えたこと。

今回の研修では各部署の見学や体験が多く、テレビ局の舞台裏を肌で感じることができました。その中でも特に印象に残ったのは、番組の事前打ち合わせです。てっきり、何度も意見がぶつかり合うほど緊張感が漂う現場を想像していましたが、蓋を開けてみると終始和やかな雰囲気で行進していき、途中で交わす何気ない雑談から新しいアイデアを生み出していき、社員の方のクリエイティブさに度肝を抜かれました。また、意外なところに組織を円滑に運営する秘訣が眠っていることに気づくことができました。

今回、ただでさえ忙しい合間を縫って研修生を迎えてくださっているにもかかわらず、私たち研修生を常に気遣う社員の方々の姿に、どこか大人の余裕のようなものを感じ、「私も将来は気配りができる社会人にならなければ」と感じました。そして、研修を通じて「社会」というものに直に触れたことで、自分自身の未熟さが露呈した気がします。また、私以外の研修生たちから受けた刺激も計り知れません。この先、就職活動を控える立場として、改めて身を引き締める必要があると痛感しました。ただ、それは、このインターンシップ研修という成長できるチャンスと真摯に向き合ったからこそ、知ることが出来た自分の弱点だと思います。自分の殻を破るための環境へ、自ら飛び込むことができたことは良かったと思います。

最後に、ご多忙の中、至らぬ点の多い私を受け入れてくださった株式会社テレビ愛媛のみなさまに心から感謝申し上げます。

松山東雲女子大学

人文学部
心理子ども学科
心理福祉専攻3年

いのもと まり
岩本 真璃

研修先 松山総合開発株式会社
ANAクラウンプラザホテル松山

私がインターンシップに参加した目的は、実際に社会人になる前に、今の自分自身に足りないことは何かを、働く現場を見て把握したいと思ったからです。今回の研修では、宿泊部門・宴会部門・レストラン部門の3つの部署をそれぞれ2日間ずつ体験し、初日・4日目・最終日にはグループごとに話し合いを行い、PDCAサイクルを用いて目標設定や振り返りをしました。

インターンシップを通して、働く上で人とコミュニケーションをとることはとても大切なことだと実感しました。お客様に対してだけではなく、同じ部署のスタッフ間や別のスタッフ同士など、様々な人とコミュニケーションをとり、連携して仕事をしていく必要がありました。ほんの些細なことでも報告をしていて、ミスが起きないようにしていました。この経験は今後の大学生活や就職活動に生かせることなので、自分自身に役立てていきたいと思っています。

松山東雲短期大学

現代ビジネス学科
1年

はなだ あきな
花田 瑛菜

研修先 星企画株式会社

私は、今回のインターンシップ研修から多くのことを学びました。研修前はとても不安でしたが、研修の初日から職員の皆様がやさしく声をかけて下さり、緊張も少しずつほぐれ積極的に研修に取り組むことができました。

そして、研修後、「働くこと」に対する考え方が変わっていました。研修前の私は、「働くこと」に対して、厳しい、責任が重いなど、マイナスのイメージばかり抱いていました。仕事をしていく中では、責任が重いことや大変なことはあると思います。しかし、研修を通して、共感できる企業理念の会社で働き、自分が覚悟を持って打ち込むことができる仕事ならば、どんなに大変な仕事でも楽しんでいるようにすら感じました。「働くこと」は生活していくためだけではなく、成長を目指すことができるものであること、そのためには何事にも失敗を恐れずチャレンジしていく心掛けが大切なのだと思います。

また、コミュニケーション力の重要性について、認識を深め、挨拶・情報収集・スケジュール管理が大切であり、それらが自分の課題であると気づくことができました。

今回は他大学の3年生とともに活動することができ、大いに刺激を受けました。積極的に質問したり、指示がなくても自分から行動できたりする姿勢を見習い、今後の短大生活や就職活動に活かしていきたいと思っています。

聖カタリナ大学

人間健康福祉学部
人間社会学科 3年

ながさき たく
長崎 琢

研修先 伊予市役所

私がインターンシップ研修に参加した目的は、市役所の職員として働きたいと思っている自分の適性について知りたかったためです。また、市役所の業務を実際に体験することで、具体的な業務内容を学びつつ、業務についての知識を深めたいと考えたからです。

研修中は、1日ごとに異なる部署で業務を体験させていただきました。そこで知ることができたのは、まず市内の施設・店舗・人と協同で業務を行っている部署が多いことでした。また部署によっては、災害にあった場所での工事状況を確認するなどの理由から、施設外に出る業務が多くなるということでした。市役所というバックオフィスでの業務が中心になると思っていたので、その思い込みを解く貴重な機会となりました。

様々な部署での研修を終えて強く感じたことは、責任感を持つことの必要性です。市役所は市を運営する中心的な場所ですが、仕事をするにあたってはその自覚を持って、必要な知識を自分で身につけるという努力が必要であると感じました。市役所には様々な業務がありますが、どのような業務に就いたとしても、市民の方の質問に「分かりません」といった回答をしないためにも、自ら学ぶ姿勢が大切だということ学びました。自分の生活の中でも、この姿勢を忘れないよう意識したいと思っています。

参加者の声

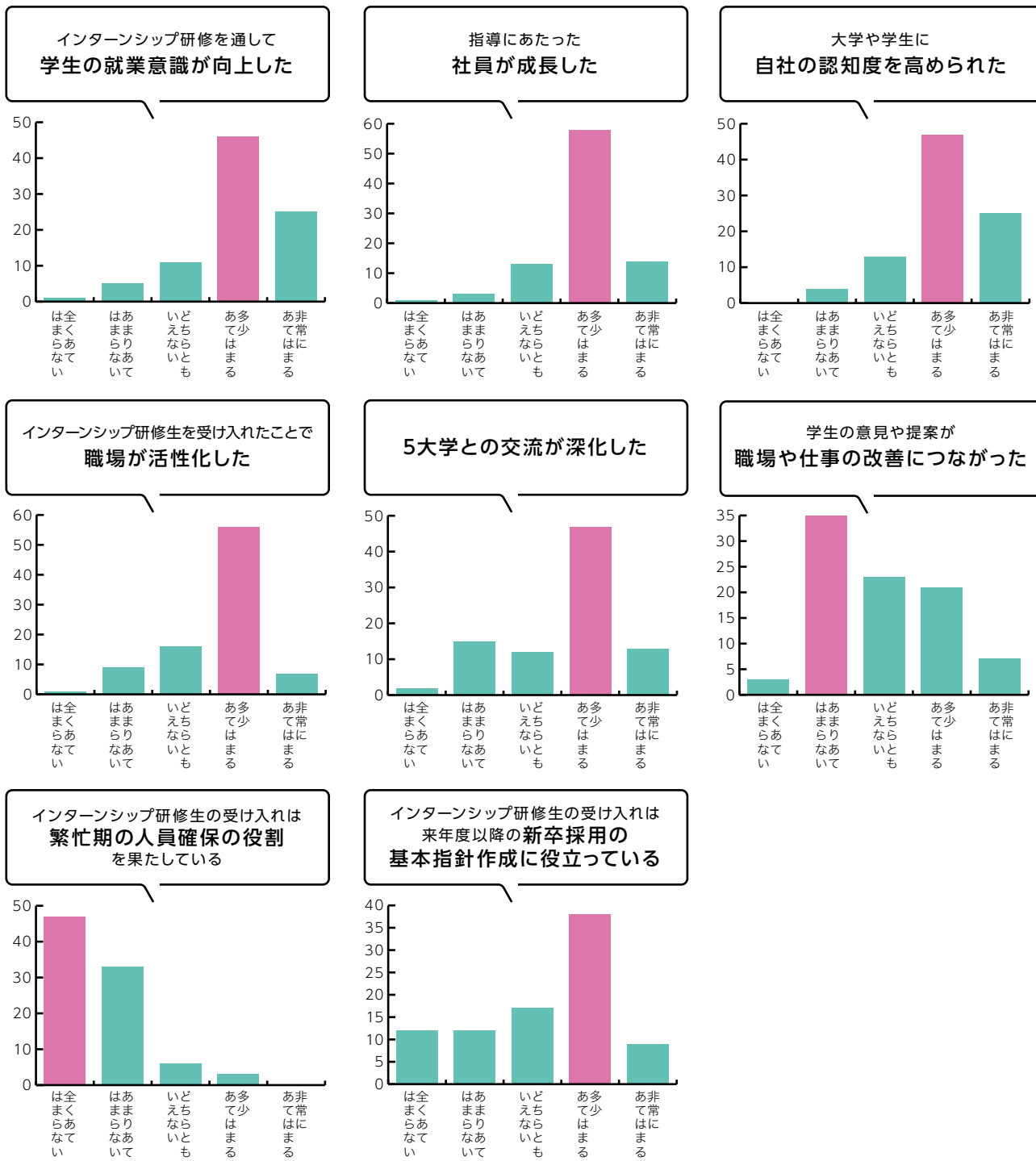
研修生受け入れ企業担当者 アンケート集計結果から

今後のインターンシッププログラムをより良くしていくため、今年度に参加していただいた121の企業・団体のご担当者に対して研修が終了した2019年9月にアンケートを実施。そのうち91社から回答を得ました。

インターンシップ研修生を受け入れていただき、得られた効果としては「学生の就業意識が向上した」「指導にあたった社員が成長した」「大学や学生に自社の認知度を高められた」など、本事業の趣旨をご理解いただきつつ、受入が組織の活性化やPRにも貢献していると、8割方企業・団体の皆様に感じていただいております。

反面、「学生の意見や提案が仕事の改善につながった」点については明確な傾向が見えず、学生のスキルによって差が生じていることがうかがえます。また、「繁忙期の人員確保の役割を果たしている」が「まったく当てはまらない」とする回答の多さと「(受入が)新卒採用の指針作成に役立っている」が「多少あてはまる」とする回答の多さから、企業・団体のみなさまが、学生や若手の指導育成という観点で取り組んでくださっていることが分かります。

今年度、研修生を受け入れていただいた企業・団体の大部分がそのメリットを感じていただき、今後も継続して受け入れる意向を示していただいたことは、本事業への理解が進み、定着しつつあると考えております。



受入企業・団体一覧 (順不同)

1	株式会社アート不動産	46	株式会社スズキ自販松山
2	株式会社アール・シー・フードバック	47	聖カタリナ大学
3	株式会社アイクコーポレーション	48	生活協同組合コープえひめ
4	株式会社アットハウジング	49	摂陽明正株式会社
5	株式会社ありがとうサービス	50	株式会社セブンスター
6	社会医療法人石川記念会 HITO病院	51	株式会社大屋(ドラッグストアmac)
7	一宮運輸株式会社	52	太陽石油株式会社四国事業所
8	今治市役所	53	ツウテック株式会社
9	NPO法人いよココロザシ大学	54	株式会社つるや
10	伊予市役所	55	株式会社テレビ愛媛
11	伊予鉄グループ	56	東京海上日動火災保険株式会社
12	医療法人財団尚温会 伊予病院	57	トヨタL&F西四国株式会社
13	株式会社ヴァンサンカン	58	トヨタカローラ愛媛株式会社
14	宇和島ケーブルテレビ株式会社	59	株式会社トヨタレンタリース西四国
15	エスエスオート株式会社	60	有限会社永井商會
16	愛媛医療生活協同組合	61	新居浜市役所
17	愛媛県警察本部	62	株式会社日本エイジェント
18	愛媛県	63	ニンジニアネットワーク株式会社
19	株式会社愛媛CATV	64	株式会社ハート
20	国立大学法人愛媛大学	65	濱田農園
21	特定非営利活動法人えひめグローバルネットワーク	66	株式会社ビージョイ
22	愛媛トヨタ自動車株式会社	67	株式会社ビオトープ
23	愛媛トヨペット株式会社	68	株式会社ファインデックス
24	株式会社えひめリビング新聞社	69	株式会社フェロースシステム
25	愛媛労働局	70	社会福祉法人福角会
26	株式会社尾崎設計事務所	71	株式会社フジ
27	株式会社ガリレオコーポレーション	72	ベストケア株式会社
28	一般財団法人休暇村協会 休暇村瀬戸内東予	73	星企画株式会社
29	株式会社協和	74	株式会社ホテル椿館
30	月心グループ 株式会社公益社	75	株式会社ホテル八千代
31	こうち人づくり広域連合	76	松山市役所
32	医療法人こぐま小児歯科・歯科	77	松山青果株式会社
33	株式会社 昆布森	78	松山赤十字病院
34	西条市役所	79	松山総合開発株式会社 ANAクラウンプラザホテル松山
35	佐川印刷株式会社	80	学校法人松山大学
36	株式会社サニクリーン四国	81	株式会社マルナカ
37	自衛隊愛媛地方協力本部	82	株式会社三好鉄工所
38	重松建設株式会社	83	有限会社ゆうぼく
39	四国医療サービス株式会社 国際ホテル松山	84	株式会社ヨシケンコーポレーション
40	株式会社四国中央キャリア	85	有限会社ラポール
41	四国中央市役所	86	株式会社レディ薬局
42	NPO法人 西条まちづくり応援団	87	特定非営利活動法人ワークライフ・コラボ
43	シブヤ精機株式会社	88	ネットトヨタ南国株式会社・株式会社ビスタワークス研究所
44	一般社団法人えひめ若年人材育成推進機構	89	DCMダイキ株式会社
45	株式会社スイッチカンパニー		